

---

領域名：成人保健看護

報告者：宮城 裕子

---

**教育及び実践の課題**

---

慢性疾患は患者による治療の自己管理を必要とし、看護においても患者の自己管理を支援する患者教育は重要な役割の1つである。患者が主体的に自己管理に向かい生活習慣の修正などの行動変容に繋げていけるようになるためには、患者の価値観や生活に即した内容・方法とする患者教育が求められる。

成人保健看護では、慢性疾患をもつ患者への患者教育支援の必要性や主な理論モデルを講義の中で学ぶ。演習では、事例を用いて看護過程とロールプレイを行い患者教育支援の方法を学習しており、効果的な教育方法について検討を重ねていきたい。

---

**活用した論文の概要**

---

オランダの4カ所の看護教育機関で患者教育支援に関する明記されている教育カリキュラム、及び教員への半構成的面接の内容について、Duprez らの「慢性疾患患者の教育支援のためのコンピテンシー」及び Wachtker、Troein の「カリキュラムの次元」を枠組みとして内容を分析し、アンケート調査による学生の能力・行動及び自己効力感との関連を示している。慢性疾患をもつ患者へ教育支援を行う看護者の総合的なコンピテンシーとして、「患者の経験を自分(看護者)ケア提供に関する貴重な情報として認識する」、「患者の(文化的な)背景を考慮する」、「患者と一緒に看護者が行うケアの内容や量を決定する」、「医療の視点では理想的でなくても患者の選択をケアの基礎に置く」、「患者が目的を達成できない場合は理解を示す」、「自分(看護者)の管理(ケア)をリフレクションする」ことが示されている。

研究結果として、教員の自己管理に関する認識や教育のコンセンサスが少ない点、学生は大学と臨床現場で役割モデルが不足している点、患者教育支援に関する学生の自己効力感やスキル強化のためには忍耐力と多くの訓練の必要性が明らかになった点が報告されている。

---

**教育及び実践への活用**

---

成人保健看護演習において、学生は慢性疾患をもつ患者事例を用い、患者へ伝えるべき知識とその患者がおかれている状況とを結びつけて判断し、ロールプレイを通して教育支援を実践している。その中で上記のコンピテンシーを組み入れ、患者を生活者として捉える視点や教育的関わり技法、患者の変化を確認する視点などを示し、具体的に取り組めるように追加した。

患者の価値観や療養への思い、また生理学的データの変化には反映されない患者の感情や言動、認知等の小さな変化を望ましい変化へ支える教育的関わりにおいて、学生が主観的・客観的な経験を通して学ぶ機会を増やしていくことが望まれる。演習や講義の他に、成人保健看護実習 I・II などにより、学生が経験したことを教員が共有し、意味づけやコンピテンシーとの繋がり等を具体的に示すことで、患者教育支援の理解を深めていく必要がある。

---

**参考文献**

---

Susanne M.van Hoof, Yvonne N.Becque, et.al.(2018). Teaching self-management support in Dutch Bachelor of Nursing education: A mixed methods study of the curriculum. Nurse Education Today, 8,68, 146-152.

---